

園長だより

酷暑の夏をなんとか乗り切りました。寝苦しい夜から徐々に解放され心地よい睡眠がとれる季節になりました。

夏の疲れがこれから出てくる頃です。油断は禁物です。

活動的な子ども達に触発され、園庭を駆けまわる機会が増えました。身体を動かしながら夏の疲れをいやしたいものです。

あそびの足跡から

子ども達の姿を想う。



目の前で見せる子ども達の行動や幾つもの表現、保育者はその奥にある学びや思いを一瞬、一瞬に読み取る。厳密には読みとくというのだろうか、育ちをみるまなざしを養い、獲得していくことは保育者なら当然のことであるが、永遠のテーマでもあります。

現場から離れて数年の歳月が経ちます。子ども達と関わる時間も年々、減る傾向にあります。共に遊び、目の前にいる子ども達を常にみていく立場の保育者とは異なり、遊びの足跡(子どもがいなくなったあそび場)をみて、直接見えない姿や子ども同士のやりとりを想像することがあります。想像には日頃の保育士からの情報や限られた時間がかかわった子どもの姿を絡ませていきます。

ほぼ毎日の日課になっていますが、子ども達が園庭で遊び、保育室に戻った後、園庭の



水まきや雑草抜きなどをします。

遊んだ遊具の片付け忘れなど(意図的に環境を残すこともあります)園庭には遊んだ足跡(形跡)が至る所にあります。

掘りたいの地面が掘り起こされていれば「幼虫探しをしたのかな」無造作に放り投げられたバケツを見ると、「より大切な事に出会い、放り投げその場を去ったのだろうか」更にはその先も勝手に想像し、「幼虫探しは〇〇組の〇〇くんかな」「数匹見つけて歓喜に満ちているのだろう」いやいや、「今日は幼虫のいでたちが気になり足の数を数えているに違いない 新たな発見をしているだろう」と勝手な想像が頭の中をめぐるわけです。大方、想像通りになるときもあれば、予想もしないエピソードを聞くことがあります。

さて 下の画像からどんなことを思い浮かべますか



子ども達が保育室へもどった後の光景です。園庭の小屋の台に均等にくぬぎの葉っぱが並んでいます。 みつけた時は落ち葉が偶然に並んだ? それは奇跡だろう。きつと意図的に並べて置いたことに違いない。どんなやりとりが展開されていたのか頭の中

をぐるぐると思いがめぐります。

葉っぱというキーワードから子ども達は、食べ物やお金に見立て遊んだのだろうか? それとも環境認識というもののか、均等に並べてみることをしていたのだろうか? 幾つもの想像を膨らませます。

次の画像から



大型遊具の下に廃材で制作した遊具があります。子ども達は車や船に見立て、戦いごっこ基地に使っている場所です。中央にシャベルらしいものがあります。

本来なら砂場や、存分に穴掘りをできる場所に置いてあるものです。

ここでも想像が頭の中をめぐる。戦いごっこか、はたまた海賊に扮している子ども達が浮かびます。

シャベルを手に持ちぐるぐるまわし、いざ出発と勇ましく遊んでいる子ども達、戦いごっこならピストルにみたて「ばん、ばん」と弾を撃っていることでしょうか。 それとも女の子がお家ごっこをして調理道具に見立て遊んでいたのかな?

私はこのように、遊びの足跡から子ども達の遊ぶ姿を思い浮かべる事があります。

いつも傍にいて寄り添い、見守り、時には一

緒に遊び、生活を共にできる立場でない私には想像することが見えない部分を補う一助になります。

子どもを理解するための条件を新たに加えるなら見えない姿や子どもの過ごした場所の足跡(形跡)からいろいろと想う気持を持つことが大切と考えます。

しかし、できるだけ、時間が許される限り、子ども達の姿をしっかりとみて、育ちをみるまなざしを養っていききたいものです。

時間の使い方は人それぞれ、自分次第で子ども達との有意義な時間を生み出せることを考え、子ども達と過ごしたいと思っています。

運動会って何?

3歳児は運動会そのものを理解している年齢ではありません。運動会について聞いてみると「かけっこの日」「よーいドンの日」など自分が行うことをイメージします。活動に取り組みながら具体的なイメージを持っていくと言えます。また見ることも大切、異なる年齢の活動からいろいろと吸収しています。

これが一年後、2年後の活動の源に繋がっていきます。みて、きいて、かんで、大切な時間です。



「みかんさん じょうずだよ」